

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第6学年 国語科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <p>令和7年度の村学力調査の結果は、総合的に全国平均を10%以上下回る結果となった。特に「書くこと」の領域では、全国平均より-20%と大きく下回っている。中でも「目的に応じて文章を書く」や「資料から読み取った事実を構成や展開を踏まえて書く」ことに課題があるので、文章を書く時間を継続的に設けて解決していく必要がある。</p>	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・語彙を増やすために、国語辞典を活用して様々な意味の言葉に触れる機会を多く作ったり、問いに対する答え方を提示したりする。 ・ノートに自分の考えを書き表す場を多く設定する。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <p>【基礎基本が必要な児童への手だて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章を書くときに、題材文のキーワードに線を引かせたり、グループワークで筆者の考えに対してどう思うか話し合ったりしたあとに、自分の考えを書くようなステップで「書く」ことに取り組めるようにする。 <p>【活用が必要な児童への手だて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明文や物語文に対する考えの説得力を高めるためにどうするか問いかけ、調べたり経験したりしたことを根拠に自分の考えをもてるようにする。また、条件を指定して、自分の考えを書くような機会も設ける。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <p>①朝の時間やスキルタイムに新聞記事（ニュース記事）を読み、自分の考えを書く時間を設ける。また、書いたものをもとに意見交換し、多様な意見・書き方に触れる。</p> <p>②スキルタイムに継続的に100マス程度の作文を3分間で実施する。題材は児童に委ねる時もあれば教師側から指定するときもある。書くことへの抵抗感を減らし、児童同士で推敲し、教員が確認することで、文章の質を上げていく。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①毎週1回以上実施し、「事実を読み取って書いているか」「書いた内容がより具体的になってきたか」「理由は明確になっているか」「説得力を高める文章校正になっているか」を検証する。</p> <p>②毎週1回以上実施し、「文章量が増えているか」「目的に合った文章になっているか」「工夫した表現を使っているか」「適切な文章の構成になっているか」を検証する。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】</p> <p>＜成果＞</p> <p>＜課題＞</p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】</p>
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】</p>	

〈授業改善推進プラン 令和7年度第6学年 社会科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

令和7年度の村学力調査の結果は、総合的に全国平均を20%以上下回る結果となった。特に「国土の自然などの様子」の領域では、全国平均より-25%程度と大きく下回っている。中でも「六大陸三海洋」や「アメリカの位置と国旗」などの知識面に課題があるので、学習したことを復習したり、その知識を用いて考えたりする活動が必要である。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ・教科書に載っている資料だけでなく、様々な統計資料や映像資料を活用し、読み取る練習をする。
- ・資料から読み取れることを記録する。
- ・ICTを活用し、実際の様子を見てイメージできるようにする。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

【基礎基本が必要な児童への手だて】

- ・ICT機器などを活用して、具体物や映像、写真を使って視覚的に理解できるようにする。
- ・体験的な学習や日常生活との関連付けを授業内に取り入れる。
- ・定期的に小テストやクロスワード、クイズなどを行い、知識の定着を図る。

【活用が必要な児童への手だて】

- ・まとめる段階で、「どの学習内容が関係しているか」を振り返る場面を設けることで、知識を関連付けたり総合したりできるようにする。
- ・思考場面では、児童自身の生活と結び付けたり、歴史であれば今とのつながりを考えたりできるように視点を与えることで、社会的事象の見方・考え方を働かせられるようにする。
- ・グループで学習問題に対して話し合いを行い、学びを深める機会を設ける。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①児童の関心の高い日常生活に結び付けたり、具体物や写真、映像を用いたりして、知識を実感しながら得ることができるようにする。
- ②スキルタイムなどで、学習内容についての小テストやクイズで知識の定着を図る。
- ③「自分だったら」や「今とのつながり」を意識して、学習問題に対する自分の考えを書けるようにするために、小グループでの話し合いの機会を設ける。

＜検証方法＞

- ①知識を定着するには、イメージを伴っているかが大事なので、毎単位時間の学習のまとめやテストで8割以上の得点がとれるか検証する。
- ②学期末に学習してきた単元の知識に関するまとめテストを実施し、9割以上とれるか検証する。
- ③まとめる段階の「学習問題に対する自分の考え」の記述内容に「自分自身との結びつき」や「今とのつながり」が適切に書いてあるか検証する。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第6学年 算数科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和7年度学力調査では、「面積」領域が全国平均を上回っていた。一方、他領域では全国平均を下回っており、特に「分数の計算」「整数の仲間分け」において課題が見られた。 算数全般的において「主体的に学習に取り組む態度」の力を引き上げる必要がある。 特に「数と計算」領域について、基礎的な問題が正確に解ける力を付ける必要がある。 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> スキルタイムでは既習学習の内容を復習する時間を確保する。 ICT機器を効果的に授業の中で活用し、提示する。 生活の中のものをテーマにしてデータを収集し、グラフを作成して分かることや傾向などを読み取る活動を実施する <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <p>【基礎基本が必要な児童への手だて】</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎授業、前時のおさらいを丁寧に行う。授業のねらいにつながる既習内容を確認することで、児童の不安感を軽減し、主体的に自力解決できるようにする。 AIドリルを活用し、個に応じた課題設定をする。 <p>【活用が必要な児童への手だて】</p> <ul style="list-style-type: none"> 数の概念や図形をより具体的にイメージしやすいよう、ICT・具体物等を使って問題を可視化する。「分数の計算」や「比」における文章問題では、数直線や線分図を使ってわかっていることや聞かれていることを整理する。 立式する際も、図や言葉で説明できるようにする。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ol style="list-style-type: none"> 既習事項とのつながりを意識させることで、児童の不安感を軽減し、学習内容へのスムーズな導入を図り、主体的に学習に取り組めるようにする。児童の自作問題でおさらいをするなど、児童が主体的に取り組めるよう工夫する。 ペアやグループによる学習で、半具体物や図、言葉を使って説明しあうことで、児童全員が「わかる」「できる」を体験できるようにする。 東京ベーシックテストでの課題となった単元を徹底的に復習し、既習学習の定着を図る。 	<p><検証方法></p> <ol style="list-style-type: none"> ワークテストの知識・技能・思考の3観点において、それぞれ正答率8割を目標とする。8割を獲得できるようになれば、基礎的な内容は概ね身についたと考えられる。 2学期末までに、自分の考えや、授業を通して分かったことなどをノートに書きあらわせるようにし、検証する。 東京ベーシックテストを行い、既習した学習のどれくらい定着しているのかを図り、個に応じた課題プリントを実施し確かな定着を図る。
<p>4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】</p> <p><成果></p> <p><課題></p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】</p>
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】</p>	

〈授業改善推進プラン 令和7年度第6学年 理科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

令和7年度の村学力調査の結果は、総合的に全国平均を10%程度下回る結果となった。問題別に見ると、特に「天気の変化」と「物のとけ方」では、全国平均よりも20%以上下回る結果となっている。全体的に、学習した知識が定着しておらず、知識を活用することができていない傾向がある。学んだことを復習したり、生かしたりする手だてが必要である。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ・必要感をもたせるために、「なぜ？」を引き出す導入の工夫を行う。
- ・予想と理由を分けて考えることで、「難しい」という考えをなくすようにする。
- ・思考を整理するために、ノートに明確に自分の考えを書き表せるようにする。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

【基礎基本が必要な児童への手だて】

- ・知識を小分けにして、整理できるように單元ごとに理科用語シートを用意する。
- ・ゲーム性を取り入れて、反復学習を行い、知識を習得する機会を設定する。

【活用が必要な児童への手だて】

- ・問題解決学習を通して、特に予想や考察場面で生活経験や既習事項を根拠に考えられるようにする。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ① ICT機器などを用いて、「理科用語シート」に授業内で出てきた理科の語句を文章だけでなく、図や絵で表し、知識を整理できるようにする。
- ② 授業の始めや単元のまとめで、学習したことをもとに児童同士でクイズを出し合う。
- ③ 対話を通して、予想や考察の場面で生活経験や既習事項と関連させて考えるように視点を示す。

<検証方法>

- ① 単元のまとめで理科用語を用いてまとめられているかと単元まとめテストで9割以上とれているか2点で検証する。
- ② プレテストでは9割以上、単元まとめテストで9割以上とれているか検証する。
- ③ ノートやワークシートの記述内容に妥当性があり、生活経験や既習事項が記載されているか確認する。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

<成果>

<課題>

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第6学年 音楽科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽技能の機械的訓練に偏ってしまわないよう、音楽活動と関わらせながら知識や技能を習得することで、「わかった」と実感したり、児童が主体的に学び、思考・判断・表現することで「できた」と感じたりすることができるようにする必要がある。 ・既習の楽典知識や、歌唱の技能が十分に定着していない児童が多くみられる。 ・児童の興味・関心を引き出し、主体的に学習に取り組む態度の力を引き上げていく必要がある。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲を聴いたり楽譜を見たりして感じたことや気付いたことを発言したりワークシートに記入したりし、曲の特徴について気付きを深めたり、それを捉えた表現をしたりすることができるようにする。 ・短いフレーズを一人ずつ歌ったり演奏したりし、技能の習得状況を把握して、必要に応じて個別指導を行うなどその後の指導に生かす。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <p>【基礎基本が必要な児童への手だて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲を聴いたり楽譜を見たりして曲の特徴についての気付きを深めたり、様々な表現方法を試したりして、曲の特徴を捉えた表現ができるようにする。 ・ICT 機器及び教材を用いて、自らの学習状況に合わせた学習の仕方を選択できるようにする。 ・児童の興味・関心に合わせた教材の選択により、意欲を高める。 <p>【活用が必要な児童への手だて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲を聴いたり表現したりして曲の特徴についての理解を深め、それら曲の特徴にふさわしい表現について思いがもてるようにする。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <p>①歌唱や合奏などで、教材の表現方法・パートをグループで選び、役割を分担して学習を進める活動を取り入れる。学び方を児童が選ぶことで、主体的に学習に取り組む態度を高める。</p> <p>②楽典知識の積極的な活用を促す。強弱記号や音符の音価などを教材ごとに丁寧に指導する。ミニテストを実施し、短時間での反復・定着を図る。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>①授業毎に振り返りカードを書く活動を実施する。話し合いの記録や振り返りカードを記録し、協力度やそれによる達成感が味わえているかどうかを分析する。</p> <p>②題材ごとにミニテストの正答率を比較し、効果を比較する。9割の児童が、強弱記号や正しい音価を理解し、演奏に生かせるようにする。</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①歌唱や合奏などで、教材の表現方法・パートをグループで選び、役割を分担して学習を進める活動を取り入れる。学び方を児童が選ぶことで、主体的に学習に取り組む態度を高める。</p> <p>②楽典知識の積極的な活用を促す。強弱記号や音符の音価などを教材ごとに丁寧に指導する。ミニテストを実施し、短時間での反復・定着を図る。</p>	<p><検証方法></p> <p>①授業毎に振り返りカードを書く活動を実施する。話し合いの記録や振り返りカードを記録し、協力度やそれによる達成感が味わえているかどうかを分析する。</p> <p>②題材ごとにミニテストの正答率を比較し、効果を比較する。9割の児童が、強弱記号や正しい音価を理解し、演奏に生かせるようにする。</p>
<p><方策></p> <p>①歌唱や合奏などで、教材の表現方法・パートをグループで選び、役割を分担して学習を進める活動を取り入れる。学び方を児童が選ぶことで、主体的に学習に取り組む態度を高める。</p> <p>②楽典知識の積極的な活用を促す。強弱記号や音符の音価などを教材ごとに丁寧に指導する。ミニテストを実施し、短時間での反復・定着を図る。</p>	<p><検証方法></p> <p>①授業毎に振り返りカードを書く活動を実施する。話し合いの記録や振り返りカードを記録し、協力度やそれによる達成感が味わえているかどうかを分析する。</p> <p>②題材ごとにミニテストの正答率を比較し、効果を比較する。9割の児童が、強弱記号や正しい音価を理解し、演奏に生かせるようにする。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】</p> <p><成果></p> <p><課題></p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】</p>		
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】</p>			

〈授業改善推進プラン 令和7年度第6学年 図画工作科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・基礎基本的な道具や材料の使用方法を習得し、技術を身に付ける。・自分で考えたり、感じたりして豊かに表現や工夫する力をさらに高める。・様々な発想の方法をできるように発想する力をさらに高める。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・材料や道具などの使い方を掲示や ICT を活用して確認する。・児童と実際にその材料や道具で工夫できるところを確認し、実際に試すことのできる学習場面を設定する。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <p>【基礎基本が必要な児童】</p> <ul style="list-style-type: none">・全体指導だけでなく、児童の能力に応じて個別に指導し、児童自身の困り感を解消していく。最低限の基本的な技能の習得を目指す。 <p>【活用が必要な児童】</p> <ul style="list-style-type: none">・自分の発想を試すことのできる題材や材料を用意する。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <p>①掲示や ICT 機器を活用しての材料や道具の使い方を説明するとともに、様々な道具や材料に何度も触れる機会を増やす。</p> <p>②表したいものを見付けるための様々なアプローチを経験できるように導入の中でねらいを明確にして伝えることにより意識させる。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①児童や作品の観察。毎時間全児童に声をかけて回るようにする。児童が材料や道具を正しく扱え、どんな小さな工夫でも良いので自分なりの工夫をできるようにする。</p> <p>1学期の間に電動糸のこぎりやのこぎり、釘打ちといった既習の基本的な道具や材料を正しく扱えるように指導する。</p> <p>②児童や作品の観察。毎回の授業でねらいに沿った活動が行われているか確認する。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none">・ <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none">・	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】</p> <ul style="list-style-type: none">・
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】</p>	

〈授業改善推進プラン 令和7年度第6学年 家庭科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭科の学習は、自分の生活に直結するものであるため、学習したことを生活の中で活用する力をさらに高める。 ・ミシン縫いによる目的に応じた縫い方の技能を定着させる。 ・学習した調理を生活の中でも活用できる技能を定着させる。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なし <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の評価を行い、個々の技能の定着を図る。 ・進みの早い児童には別の課題や応用の課題を出し、さらに技能の定着を図る。 ・児童間での学び合い、教え合いができる工夫をする。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <p>①調理実習において、個々の技能や課題を把握するため、実習中に個別の評価、声かけをしていく。</p> <p>②進みの早い児童には発展的な内容の課題を用意しておく。さらに“できた”を実感できるようにする。</p> <p>③児童同士での学び合い、教え合いができるよう、ペアや班ごとの学習を取り入れる。掲示物も用いて意識をよりもたせる。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>①調理技能を正しく身に付けることができるように、調理実習の役割分担を明確にし、評価を行う。</p> <p>②題材の終わりに、題材の振り返りシートに取り組む。発展的な課題に取り組んだ児童ができた実感する解答・記述をしているか、題材の終わりに確認をする。</p> <p>③題材ごとに授業アンケートを行い、児童の学習状況や課題を把握し、次の題材に活かす。</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①調理実習において、個々の技能や課題を把握するため、実習中に個別の評価、声かけをしていく。</p> <p>②進みの早い児童には発展的な内容の課題を用意しておく。さらに“できた”を実感できるようにする。</p> <p>③児童同士での学び合い、教え合いができるよう、ペアや班ごとの学習を取り入れる。掲示物も用いて意識をよりもたせる。</p>	<p><検証方法></p> <p>①調理技能を正しく身に付けることができるように、調理実習の役割分担を明確にし、評価を行う。</p> <p>②題材の終わりに、題材の振り返りシートに取り組む。発展的な課題に取り組んだ児童ができた実感する解答・記述をしているか、題材の終わりに確認をする。</p> <p>③題材ごとに授業アンケートを行い、児童の学習状況や課題を把握し、次の題材に活かす。</p>
<p><方策></p> <p>①調理実習において、個々の技能や課題を把握するため、実習中に個別の評価、声かけをしていく。</p> <p>②進みの早い児童には発展的な内容の課題を用意しておく。さらに“できた”を実感できるようにする。</p> <p>③児童同士での学び合い、教え合いができるよう、ペアや班ごとの学習を取り入れる。掲示物も用いて意識をよりもたせる。</p>	<p><検証方法></p> <p>①調理技能を正しく身に付けることができるように、調理実習の役割分担を明確にし、評価を行う。</p> <p>②題材の終わりに、題材の振り返りシートに取り組む。発展的な課題に取り組んだ児童ができた実感する解答・記述をしているか、題材の終わりに確認をする。</p> <p>③題材ごとに授業アンケートを行い、児童の学習状況や課題を把握し、次の題材に活かす。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】</p> <p><成果></p> <p><課題></p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】</p>		
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】</p>			

〈授業改善推進プラン 令和7年度第6学年 体育科〉

<p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・する、みる、支える、知るの4つの体育の見方・考え方で運動を楽しめるように、各領域において児童が「目的意識」をもって「必要感」を感じて学習していく必要がある。特に、チームでの協力が必要なボール運動領域の技能面を高めるために、作戦を話し合っ決めてたり、動き方やボール操作についてアドバイスをし合ったりして学習活動できるような手だてが必要である。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用し、参考になる映像と自分の動きを比較することで違いを具体的に見つけられるようにする。 ・学習カードを用いて、自分の課題から次の学習のめあてを設定させるようにする。技の習得をしたり勝利したりするために効率的な方法を思考する過程を通じ、『わかる』ことの重要性を振り返り、実感させる。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの単元でもペアやトリオ、チームなどの複数人で取り組む学習形態にする。 ・ICT機器を活用して動きを撮影し、技能面でアドバイスをし合えるようにする。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <p>①チームでの学習活動を行う時間を設け、互いに「する」「見る」「支える」中で技能や思考を高められるようにする。</p> <p>②ICT機器で手本の動画を見たり、自分の動きを撮影してアドバイスし合ったりすることで技能を高められるようにする。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>①ふりかえりにチームでの学習によって得た成果を児童が記入できるようにする。そのふりかえりに技能のポイント等の記載があるか検討する、また、ホワイトボードを用いて、作戦などの思考の形跡を確認し、検証する。</p> <p>②単元学習の始めと終わりでの児童の動きを評価し、技能面の成長が見られるか検証する。</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①チームでの学習活動を行う時間を設け、互いに「する」「見る」「支える」中で技能や思考を高められるようにする。</p> <p>②ICT機器で手本の動画を見たり、自分の動きを撮影してアドバイスし合ったりすることで技能を高められるようにする。</p>	<p><検証方法></p> <p>①ふりかえりにチームでの学習によって得た成果を児童が記入できるようにする。そのふりかえりに技能のポイント等の記載があるか検討する、また、ホワイトボードを用いて、作戦などの思考の形跡を確認し、検証する。</p> <p>②単元学習の始めと終わりでの児童の動きを評価し、技能面の成長が見られるか検証する。</p>
<p><方策></p> <p>①チームでの学習活動を行う時間を設け、互いに「する」「見る」「支える」中で技能や思考を高められるようにする。</p> <p>②ICT機器で手本の動画を見たり、自分の動きを撮影してアドバイスし合ったりすることで技能を高められるようにする。</p>	<p><検証方法></p> <p>①ふりかえりにチームでの学習によって得た成果を児童が記入できるようにする。そのふりかえりに技能のポイント等の記載があるか検討する、また、ホワイトボードを用いて、作戦などの思考の形跡を確認し、検証する。</p> <p>②単元学習の始めと終わりでの児童の動きを評価し、技能面の成長が見られるか検証する。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】</p> <p><成果></p> <p><課題></p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】</p>		
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】</p>			

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第6学年 道徳科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・教材文の内容や登場人物に共感し、自分事として価値項目について考えること。・対話的な活動の中で、価値項目について考えを深めていくこと。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・身近な場面から気持ちや行動の意図を考えさせ、イメージしやすくする。・思考を整理するために、ワークシートを活用する。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・導入場面でも価値項目について自分の考えを出し、まとめの段階でも自分の考えを出す双括的な学習の流れで授業を行う。・グループでホワイトボードや ICT 機器を用いて、話し合い考え合ったことを整理する時間を設定する。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <p>①価値項目や導入場面の問いに対して、初めに考えをもたせたうえで、教材文や友達の見解に触れた上で改めて自分の考えをもつ学習の流れで授業展開する。</p> <p>②毎回の授業の中で対話的に価値項目について考え合う場面を設け、その内容をホワイトボードや ICT 機器に整理できるようにする。</p>	<p><検証方法></p> <p>①はじめの意見とまとめの段階の意見の変容や理由の内容を見取り、検証する。</p> <p>② 話し合いの様子を観察し、ホワイトボードや ICT 機器に記載されている内容が、価値項目に正対していた考えが深まったかを検証する。</p>
<p>4. 検証結果（成果と課題）（年度末に記入する）</p> <p><成果></p> <p><課題></p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】</p>
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第6学年 総合的な学習の時間〉

<p>1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・6年生の総合的な学習の時間では、「アホウドリ」「タコノ葉細工」「世界遺産」と小笠原の地域や伝統に根差した学習を行う。それぞれの課題を自分ごとと捉え、自然や伝統、文化をより良く継承していくために課題と向き合う。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・外部講師の講義から課題を見つけ出して、インターネットや本などで調べ探究的な学習を展開する。・学習の振り返りや進捗状況を授業の終わりに全体で共有する。 <p>(2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・問題解決型学習として課題を児童に考えさせて取り組ませることで自主的に課題に取り組む姿勢を養う。・外部講師による体験型の学習を交えることで小笠原の伝統や文化、自然をより身近に感じる体験を経験させる。・発表で学んだ情報を整理し、外部へ発信する経験を通じて小笠原への知識を深める。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">①導入部分で学習のめあてを明確にし、前半で体験的学習、後半で課題を整理して解決に向けて取り組みさせる。②外部講師を招き、話を聞いたり、伝統工芸をつくる体験をすることで、さらに学習意欲が増すようにする。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">①一番初めの学習計画を立てる段階で、まとめ方をどのようにしたらよいか全体で交流するときの発言で検証する。②ワークシートの記入状況や発言の様子などで検証する。
<p>4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">・ <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">・	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】</p> <ul style="list-style-type: none">・
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】</p>	